

2010年7月10日(土)

9:30 ~ 9:40

CRT 栃木放送

両毛支局にて収録

効果の上がる夏期講習会への参加の仕方を考える

- 講習会の参加、基本のキ(1) -

開倫塾

塾長 林 明夫

Q 夏休みには夏期講習会に行く予定です。効果の上がる夏期講習会への参加の仕方がありますか。

A (林明夫。以下省略)はい、あります。「講習会の授業の前」と「講習会の授業中」、「講習会の授業が終わったあと」の3つに分けてお話しします。まずは「授業中」、次に「終了後」、最後に「授業前」と順序は後先あとさきになりますが、詳しくお話いたします。これを参考にして頂ければ、夏期講習会でかなり学力が身につく、学校での勉強がよくわかるようになって学校の成績が1以上は上がり、この通りにきちんと勉強した科目は偏差値も5以上上がります。是非じっくりお聞きになって、そのまま実行して下さいね。

Q 講習会の授業中はどのようにしたらよいのでしょうか。

A (1)できるだけ前の席に着席すること。

一番前の席なら、先生が自分一人に話しかけてくれるように感じられるからです。そのために、少し早めに会場に到着するように家を出発することが大事です。

少し早めに会場に到着したら、テキストやノートの昨日までに学習した内容を何回も何回も見直すこと、見直してスミからスミまですべて頭に入れ直すことをお勧めします。新しいことを 100 % 完全に理解するには、それまで学習した内容を 100 % 完全に理解することが最も効果的だからです。

(2) 授業中は先生の顔を見つめ、手を机の上に置き、真剣に先生の話に耳を傾けること。

おしゃべりは一切しないこと。「おしゃべり」をする人がいると授業は成り立ちません。講習会では勉強する内容がたくさん用意されています。先生も、その内容をできるだけ皆さんによくわかってもらうように、つまり「理解」してもらうように相当な準備をして授業に臨んでいます。しかし、「おしゃべり」をする人がいると、先生はその「おしゃべり」をする人を静かにさせることに大切な時間やエネルギーを使い、準備したことに大切な時間やエネルギーが使えなくなります。そこで、おしゃべりは一切しないことが受講生には求められます。

参考までに、開倫塾では講習会だけでなく普段の授業中でも、おしゃべりは「授業妨害」ですので、「絶対禁止」です。「おしゃべり」をしないように何回も注意されたにも関わらず「おしゃべり」が止まらない人は、退塾処分になります。学校で「おしゃべり」をしている人も、開倫塾をはじめとする学習塾の授業では「おしゃべり」は「授業妨害」で「絶対禁止」、「退場処分」や「退塾処分」にまでなることを十分に理解して下さいね。静かに授業を受けることも大切な能力です。これをよい機会・チャンスとし、学校でも「おしゃべり」をせずに、静かに授業に臨む能力を身につけて下さいね。

(3) 大切なことは、一語残らずノートにメモを取り続けること。

授業中にノートにメモを取り続けることができるのも大切な能力です。

大切なことを先生が丁寧に説明して下さい、その時はうんなるほどとよく「理解」できても、その場ですべてを完全に覚えることはできず「アッ」という間に忘れてしまうことが多いと思います。

全部覚えられるという自信のある人は別として、忘れることが多いという人は、先生のお話で大切なことはすべてノートにメモをし続けることをお勧めします。

何のためにノートにメモをし続けるのかというと、授業のあとで「ノートを整理」して、何回も勉強し直し、完全に身につけるためです。教科書・テキストと同じようにあとで何回も何回も勉強し直し完全に身につけるために、授業中のノートは取るのだということを忘れて下さいね。

では、どのようにノートを取ったらよいのでしょうか。ノートは自分でわかればよいのですから、「キマリ」はありません。ただ、日付けと時間、その日の授業のテーマは一番目に書いておきましょうね。あとで読んで、自分でわかる文字や数字で書きましょう。授業で大切と思われること、疑問に思うこと、よくわからないことも、自分なりの印をつけた上ではっきり書いておくと、あとで勉強するときにとっても役立ちますよ。

(4) 計算や問題練習などの解答は、教科書やテキスト、問題集に書き込まないこと。

解答はすべてノートに書くことをお勧めします。

あとで同じ問題を何回もやり直すと成績や偏差値が飛躍的に上昇しますが、解答を書き込んでしまうと同じ問題を何回も勉強する・やり直すのに妨げになることが多いからです。

ただし、解答の書き込みがあった方があとの勉強に役立つと考える人は、どんどん書き込んで下さいね。

以上が、講習会の授業の受け方です。少しは参考になりましたか。

Q はい。とてもよくわかりました。

A 次回は、講習会の「授業後」と「授業前」にどうしたらよいかをゆっくりお話します。楽しみにしていて下さいね。

以上